



議会図書室からのお知らせ

今月の新着図書
R7年10月（一般用）

『政治資金規正法』

竹内 彰志【著】/中央公論新社 (2025/6)



公明、公正な政治活動のために施行された「政治資金規正法」をわかりやすく解説する1冊。情報公開のあり方や、政治活動で注意すべき点などを論じ、政治資金と本制度の課題と展望を記す。

『アウトサイダー・ポリティクス～ポピュリズム時代の民主主義』

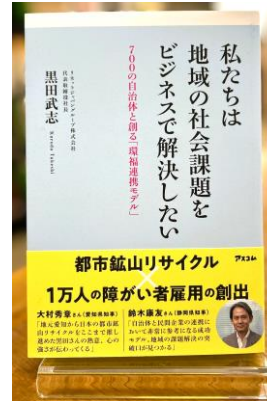
水島 治郎【編】/岩波書店 (2025/5)



トランプ再選、欧州での排外主義的政党の主流化、国内の新興政党の躍進。世界を揺るがす、新たな政治主体の「見取り図」を、各国政治研究の第一人者たちが描く、現代政治を理解するための必読書。

『私たちは地域の社会課題をビジネスで解決したい～700の自治体と創る「環福連携モデル」』

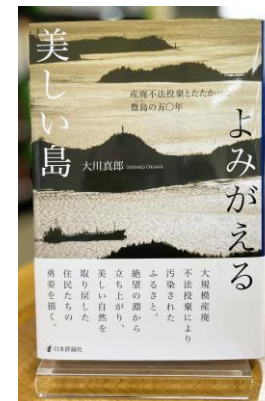
黒田 武志【著】/アスコム (2025/7)



都市鉱山リサイクル事業で自治体と連携し、1万人の障害者雇用創出を実現したソーシャル型ベンチャー企業の、苦闘と成功のストーリー。収益と社会貢献を両立させる「環福連携モデル」は、どのように実現化されたのか？

『よみがえる美しい島～産廃不法投棄とたたかった豊島の五〇年』

大川 真郎【著】/日本評論社 (2025/5)



史上最悪とも言われる産廃不法投棄に見舞われた瀬戸内海の豊島。その豊島事件で住民側弁護団の一員であった著者が、事件の全貌を明らかにする。自然豊かなふるさとを取り戻すために立ち上がった住民たちの勇姿を描く！

『激変！農政のゆくえ～「食料・農業・農村基本法」改正と食料安全保障始動』

伊本 克宜【著】/ベストブック (2025/7)



大きなニュースとなった「令和の米騒動」。生産基盤を再生し、離農を止めなければ、需要と供給のバランス維持は困難だ。「食料・農業・農村基本法の改正」と、「食料安全保障」を軸に、日本の農業の未来を予測する。

『「イスラエル人」の世界観』

大治 朋子【著】/毎日新聞出版 (2025/6)



なぜ、世界中から非難されても彼らは攻撃・報復を止めないのか？ 国家の存亡をかけた「悪との戦い」とは？ 国家の論理がわかれば、イスラエル・パレスチナ紛争の本質も見えてくる。イスラエルの「光」と「闇」を徹底解説。

『反逆の仕事論～AI時代を生き抜くための"はみ出す力"の鍛え方』

樋口 恭介【著】/PHP研究所 (2025/6)



「AIを使える」が武器になる時代は、もう終わる？ 来たる世界で戦力となるスキルは、独自のアイデアを見つける視野、経験の多様さ、理想を実現可能に落とし込む力などの「はみ出し力」だと本書は語る。未来に備えるための戦略書！

『生き延びるための昭和100年史』

佐藤 優・片山 杜秀【著】/小学館 (2025/8)



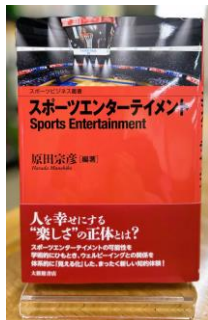
昭和100年に当たる2025年。昭和からの地続きで現代社会を見渡し、戦前から反復している課題、時代間の決定的差異や断絶を明らかにしつつ、「未来としての過去」たる歴史の教訓を浮かび上がらせた、対談の記録。



新着

『スポーツエンターテインメント』

原田 宗彦【編著】/大修館書店 (2025/5)

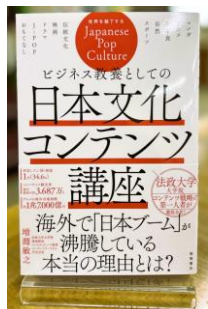


急成長するスポーツエンターテインメント。その可能性を学術的にひもとく、ウェルビーイングとの関係を体系的に「見える化」。人を幸せにする「楽しさ」の正体とは？楽しさやワクワク感を科学的に探る、知的刺激に満ちた1冊！

新着

『ビジネス教養としての日本文化コンテンツ講座』

増淵 敏之【著】/徳間書店 (2025/4)



今、海外では空前の「日本ブーム」が起きている。アニメ、マンガ、J-POP、日本食、スポーツなど、「日本文化コンテンツ」は、なぜ絶賛されているのか？日本人論から海外戦略まで、その現状と未来を考察する。

新着

『多文化共生論【第2版】～多様性理解のためのヒントとレッスン』

加賀美 常美代【編著】/明石書店 (2025/7)



多文化間で起こる社会的な不平等や偏見にどう向き合うか、支援のあり方を模索する書。マイノリティを一括りにしない複合的視座に立ち、グローバル化の現状にも目を向けた、多文化共生を理解し実践するために。

新着

『観光振興の教科書～人口減少時代の豊かなまちへ』

新谷 聡美【著】/中央経済社 (2025/7)



人口減少時代の観光振興を、常識や通説にとらわれず、多角的に読み解く。自治体職員や観光担当者が抱える現場の悩みに寄り添い、地域の実情に即した観光のあり方を、実践的に提示する。



図書広報委員がおすすめする一冊

ちょうやくばん じょうがんせいよう
『超約版 貞観政要』



原作者：呉 兢 訳者：夏川 賀央/ウェッジ
(2022年4月)



紹介者：水野 喜徳 委員
自由民主党・吾妻郡選出・1期

地元の大先輩にお勧めしていただいた一冊です。

紀元7世紀、唐の礎を築いた^{りせいみん}李世民（太宗）^{たいそう}の治世におけるマネジメントを説いています。組織での役割や部下への対応、話の聞き方や聞いた後の政治へのフィードバックの大切さ等、現代でも通用する多くの格言を残しています。

特に自らの間違いを素直に認め、方向転換を恐れない姿は、現代社会でも難しいことではないでしょうか。

政治だけでなく、ビジネスシーンにも応用の効く一冊です。

次号では、今井 俊哉 委員におすすめしていただきます！

